



# 第31回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2022年**3月11日（金）** 14:00—16:00

場所：WEB開催（zoomを使用します）

申込者には当日のアクセス方法を別途メールでご連絡いたします。

zoomが使用できない場合はご参加いただけませんのでご了承ください。

参加費：無料

主催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会

講演 I 14:00-15:00

「全ゲノム解析等を用いた網羅的ゲノム解析による消化器神経内分泌腫瘍の病態解明」

大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻 ゲノム生物学講座・がんゲノム情報学 教授

国立がん研究センター 研究所 ゲノム医科学分野 分野長 谷内田 真一

神経内分泌新生物（Neuroendocrine neoplasm, NEN）は全身に発生するが、消化器、特に膵臓が好発部位である。2019年のWHO分類においてNENは、神経内分泌腫瘍（Neuroendocrine tumor, NET）と神経内分泌癌（Neuroendocrine carcinoma, NEC）に分類された。特にNECは希少で診断時に遠隔転移を認めることが多いため手術適応患者は少なく、研究試料の入手が難しくそのゲノム異常は未解明であった。日米欧のサンプルを用いて全ゲノム解析等の最先端の解析を行い、NECの発がんメカニズムを解明したので紹介する。

講演Ⅱ 15:00-16:00

「消化器がんの自然史に沿った疾患モデルの構築と応用」

京都大学大学院 医学研究科 消化器内科学 教授 妹尾 浩

本邦のがん死亡ワースト5のうち、消化器がんが4つを占めます（大腸、胃、膵臓、肝臓）。一方、これらのがんに対する早期診断や早期治療介入の効果は明らかです。そこで、前がん病変、早期病変から進行がんに至る、消化器がんの自然史に沿った疾患モデルを構築し、解析を進めています。今回は、それらの試みの一部をご紹介します、がん予防、がん進行阻止に結びつく方策のヒントを頂ければと思います。

申込先：参加希望者は2022年3月10日（木）までに、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/>

問合先：

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（国松、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（味村）